

第2回千葉市まち・ひと・しごと創生会議における意見・提案
(11月5日第2回会議録より作成)

(人口ビジョン)

- ・人口減少のシミュレーションは、悪い方に見せて、その場合にどういうことを考えねばならないかを議論すべき。介護・福祉の分野では労働力が非常に逼迫しており、社会問題や事件まで発生。そういうネガティブな部分の表現も必要。将来的には外国人ワーカーの活用も避けて通れないと思う。(村尾委員)
- ・人口ビジョンのシミュレーションは、一番難しい。千葉県のシミュレーションは非常に楽観的で絶対に達成できないと思える。千葉市にはそのようにやっていただきたいわけではない。駄目な場合どうするかというあたりで作って貰えると安心できる。(北村委員)
- ・パーソントリップの分析について。東京圏との結びつきが弱いということは、ある意味閉鎖的ともとれる。どのように強くしていくかという観点を総合戦略に結びつけていただきたい。(下村委員)
- ・若者の転出について。千葉市に住んでいて、人と人がつながれる仕組みが少ないと思う。せっかく子どもが育つ上で谷津田や海など自然が多いのに子どもたちが自由に集まって遊べる場所が無いとか、大学生なども個人個人で就職活動をしていて、東京のようにカフェなどで、無料で企業の人とお話できるスペースが無いとか。そういうものが少し足りないと思う面がある。
- ・アンケート以外にも、大学生や主婦、NPOの方々などにヒアリングをして、コミュニティづくりについて聞き取れれば仕組みが出来ていくと思う。(粟飯原委員)
- ・千葉市は以前住んでいた八千代市と比較して交通の便が良い。東京に行くのも県内他市に行くのにも、高速道路が整っている。また市場が非常に大きいのも魅力。新規の営業が早くに決まりやすい。大きな注文も頂き驚いている。支援制度も充実しており、利子補給などもう間に合わないかと思った申請が間に合うこともある。
- ・千葉市は3LDKが多い。4LDKを探したいがなかなか無い。もうちょっと広い住宅環境をと思う。空き家対策とあわせ、ユーカーが丘の山万のような居住環境の対策を行ってもらえればと思う。(田村委員)

(総合戦略)

【重点戦略1】

- ・「千葉圏域」、「圏域千葉」という言葉をぜひ使ってもらいたい。色んなものが千葉にはあるんだよということになる。これを活かせるプランを作ってもらいたい。(北村委員)

【重点戦略2】

- ・千葉市の基盤産業は鉄鋼をはじめとする製造業。しかしさらなる基盤産業を誘致、育成する必要がある。ピザの生地のようにまんべんなく伸ばすように産業を育成するよりも、ピンポイントで集中してオンリーワンの産業を誘致していく必要がある。
- ・例えば、2020年の五輪開催に関連していえば、千葉市には障害者スポーツ関連の企業があると聞いている。そういったオンリーワンの企業を育成する必要がある。(村舘委員)
- ・人材の育成について。千葉大がスーパーグローバル大学に認定されているということもある。地域に今あるものだけでなく、外に対して、あるいは外から中へというグローバルな視点があっても良いと思う。
- ・千葉大には留学生が1000人近くいるが、就職に問題があって、どういう会社に入れるか、どういう仕事ができるかということも描いてあげると良い。千葉大を出た留学生が、東京の方で就職するのではなく、千葉で起業するなど、時間はかかってもそのようにしていくと良い。(村尾委員)
- ・現在の社会構成を人材という切り口で見ると、優秀な方もいれば普通の方もいる。そういう人材を幅広く吸収できる産業という目で見たときに、やはり製造業がそういう職種にあたるのではないか。千葉市はコンビナートを含め多くの製造業を抱えているので、それをどうやって盛り上げていくかも、千葉市に住んでいただく大きな要素。(辻委員)
- ・都市の活力を支える産業の振興。基盤産業の製造業を活かしつつ、情報通信業をどうやったら、誘致・育成できるのかといった戦略が必要。情報通信はどこでもネットがあるから仕事ができる。東京に近いというメリットを活かして、どのような形で誘致・育成していくかを書いていくことが必要。(吉開委員)
- ・産業の誘致も大切だが、働く方の働き甲斐や、働きやすさ、やりがいがある仕事、そういった仕事がついてこなければ、産業を誘致しても、千葉に住んでいる人が幸せになるかということ、なかなかそういう状況にはならない。(矢田委員)

【重点戦略3】

- ・出生率について、千葉市としての挑戦目標があっても良いと思う。(村尾委員)
- ・「妊娠」の前に「結婚」を入れられないか提案したい。結婚するところから支援していかないと、子どもが生まれていく環境を支援できない。(遠山委員)
- ・特区申請するのなら、人の育て方や教育において特区をつくれば、千葉市の先進的な特徴として残っていくのではないか。(大庭委員)
- ・女性の働き方をみると、M字カーブが以前と比べて後ろにずれ込んでいる。今の求人状況をみると高卒の求人がほとんどなく、進学せざるを得ない。結果社会に出ていくタイミングが遅くなり、仕事を続ける中で面白味も出て、晩婚化が進み子どもも少なくなる。こういう所に目を向けるべき。(辻委員)

【重点戦略4】

- ・稲毛のスマートコミュニティの評価が良い。東京からちょっと外に出て、そこを終の棲家として、趣味も楽しめ、自然が豊富だと、良いことが展開できるのでは。(村尾委員)
- ・アクティブシニアの参加について。高齢期になっても生き甲斐を持って働く、いきいきと暮らしていくというところで、戦略に高齢期の就業がイメージとして入っていない。労働力人口も激減しているので、高齢期になっても働けるような環境というのが非常に重要。
- ・千葉県全体では、高齢者の方が働ける環境が全国と比較して割と整っているという統計データもある。70歳以上まで働ける制度を有している企業が全国4位という状況もあるので、そのようなアピールが出来れば、千葉に住みたいという方も増えるのでは。(矢田委員)

【重点戦略7】

- ・市内のボランティアはかなり活性化していて、せっかくのチャンスなので、日本語ガイドや医療ボランティアなどネットワーク化を進めていけば、オリンピックの時にも役立つし、その後も市の活性化や魅力につながる。(村尾委員)

【総論】

- ・生活は産業があって、学校や病院があってはじめて維持できる。そういう視点で言えば、今回の素案はそのことが盛り込まれていると感じる。(辻委員)

- ・総合戦略は網羅的で、実際東京にはなく千葉にはある魅力とか、周辺の市町村から千葉市に人が来る魅力というのがどこにあるのかが具体的になっていない。(矢田委員)

(その他)

【特区提案について】

- ・民泊はおもてなしの観点から出ているように思うが、既存事業者には脅威。地区において全ての宿泊事業者が100%稼働している訳ではなく、既存の事業者を圧迫することにもなりかねない。共存共栄が図れるように考えた方が良い。(下村委員)
- ・ドローンが飛び交う未来都市は見てみたいが、オリンピック前の短い期間で本当にやるべきは、バリアフリーや多言語化等の地味な取り組みではないか。そういったものもしっかりとやって欲しい。(遠山委員)

以上